

平成 30 年 5 月 15 日現在

機関番号：32690

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2017

課題番号：26370964

研究課題名（和文）サンテリア信仰をめぐるグローバル化と実践コミュニティに関する文化人類学的研究

研究課題名（英文）Cultural Anthropological Research on Community of Practice in the Santeria Cult

研究代表者

井上 大介（INOUE, DAISUKE）

創価大学・文学部・教授

研究者番号：20511299

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：グローバル社会の民衆宗教という事象をヘゲモニー、実践コミュニティというテーマで考察した。具体的には、キューバにおいて、グローバル化に影響された国内外の諸変化により、政府の宗教政策が変化し、それまで抑圧の対象とされてきたヨルバ系宗教など民衆宗教的实践が社会の中で顕在化事実について考察した。

そして特に、政府の影響に基づいて発展するヨルバ文化協会の影響下では、本来の家族的紐帯に基づいた実践コミュニティ的宗教文化の形体が変容しつつある点について述べた。またそのような政府よりの組織化の流れに対し、アフリカ回帰主義的動向が顕在化しているという現象について論じ、その宗教的正統性をめぐる動向を考察した。

研究成果の概要（英文）：Through concepts such as ‘hegemony’ and ‘community of practice’, I investigated a popular religion set within a global society. Concretely, I analyzed the practices of the Afro-Caribbean popular religious movement, the Santeria cult, set within Cuban governmental politics that have come to oppose some Africanist groups that have emerged through recent globalisation.

研究分野：文化人類学

キーワード：サンテリア キューバ 実践コミュニティ グローバル化 レグラ・デ・オチャ イファ信仰

1. 研究開始当初の背景

術的背景

(1) キューバの呪術信仰サンテリアは、キューバ人類学者フェルナンド・オルティスの民族誌的研究によって先鞭が付けられ、以降1) 民族誌的研究[Cabrera, 1981, etc.] 2) ナショナリズム論に依拠した研究[Moore, 1920-1940, etc.] 3) 政治思想との関係性についての研究[Fernández, 1992, etc.]という分野が確立したが、グローバル化という文脈での研究は存在していなかった。他方、筆者は以前より、メキシコ民衆文化というテーマで、スラム街で拡大する骸骨崇拜、サンタ・ムエルテ信仰について研究を実施し、民衆文化の社会への影響について種々考察してきた。その知見をベースに、本研究では、サンテリア信仰のグローバル化における特徴について調査するに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近年拡大の途にあるサンテリア信仰という呪術的民衆宗教が、キューバという社会空間においてどう発展し社会的影響力を維持するに至っているのかを分析することにある。その際、実践コミュニティ 従属階級の人々が集団的次元において文化的正統性、主体性を獲得しうる媒体としての共同体 という近年の文化人類学的テーマのもと、民族誌データに基づきながらサンテリアと関連する キューバの歴史的・政治的動向、教義、儀礼の特徴、信者、組織の特徴、 学者、学術研究、外国人の影響、 グローバル、リージョナル、ナショナル、ローカルな次元での特徴、という5点について考察し、グローバル化に連動したローカルな社会空間の流用という新たな理論的アプローチにより、従来の実践コミュニティ論を再考察する。

3. 研究の方法

以下のような方法と段階によって本研究を遂行する。

1. キューバにおけるサンテリアの教義、儀礼に関する解説書を中心に資料の収集を行う。

2. グローバル化と文化の正統性に関する人類学関連書籍を収集し、理論的枠組みを整える。

3. 日本及びキューバのサンテリア研究に従事する研究者と連携し、実践コミュニティやグローバル化論に関する問題設定や仮説、研究方法を精緻化するとともに、研究会を実施する。

4. 都市における民衆宗教研究に関する民族誌を再読し、参与観察、統計調査、インタビュー、ライフ・ヒストリーを含む民族学的調査を準備し、(1) 抵抗の文化、(2) グローバル化論、(3) 社会空間の流用と実践コミュニティという3つのテーマで3回の現地調査を実施した。

フィールド調査は、2014年8月、2016年3月、2017年3月に各1か月間、ハバナ市内(資

料2))にある12か所のサンテリア信仰の活動拠点(ヨルバ文化協会、セントロ・ハバナ地区のレグラ・デ・オチャの拠点3か所、章で紹介するハバナ市内のエグベ8か所)で行った。調査は質的なものであり、約60人の宗教実践者へのインタビューや活動に関する参与観察で構成されている。

4. 研究成果

(1) 2014年8月のフィールド調査に基づいた論文「キューバにおけるサンテリア信仰をめぐる人類学的実践」の概要

歴史的に隠蔽されてきたアフロ・キューバ宗教の実践が政府の政治的、経済的、文化的方向性の変化により顕在化した。それまで音楽、舞踊のみをアフロ・キューバ文化として取り上げてきたキューバ政府は、グローバル化の影響に促進されながら、アフロ・キューバ文化の根幹にあった宗教性に注目せざるを得なくなり、今度はそれらを国民文化に位置づけようとしている。そのような動向において、サンテリア信仰がキューバ社会の中で活性化し、組織化の流れも進展してきた。同時にキューバへの観光客やキューバからの国外移住者の影響により、キューバそのものがサンテリア信仰における重要なスポットとなっていることが確認できた。

サンテリア信仰の実践者は、同宗教の個人的信仰や家族的環境を重視する一方で、組織化を図る人々はサンテリア信仰の普遍性を標榜する。また他方でそのような動向を否定的にみている信者も少なからず存在している。そのような信者においては、サンテリア信仰の正統性を標榜しつつもそのような組織化の流れが同信仰の権威化、制度化を推進し、本来のサンテリア信仰における個人的、家族的、民衆的性質を変貌させてしまうことに恐れを抱いているようである。そのような過程で科学的言説が用いられ、社会貢献や公益事業への参加といった政治的動向が流用されてもいる点についても確認できた。

(2) 2014年8月、2015年3月のフィールド調査にもとづいた論文「キューバにおけるレグラ・デ・オチャ イファ信仰の権威と正統性 実践コミュニティとしての民衆宗教の変容を題材として」の概要

キューバにおいて、グローバル化に影響された国内外の諸変化により、政府の宗教政策が変化し、それまで抑圧の対象とされてきたヨルバ系宗教など民衆宗教的実践が社会の中で顕在化したと共に、組織化の流れが進展し、本来の宗教実践の形体が変容しつつある点について述べた。

組織化の動向においては、国家によって宗教法人格を与えられた唯一の宗教団体として、ヨルバ文化協会が、社会的、宗教的正統性をもとにその影響力を拡大しつつある点を確認した。同協会は、ヨルバ系宗教の多様

性を教義、儀礼的側面から統合し、同協会に同意しない諸集団を排除するといった傾向も一部には存在しており、その結果、実践コミュニティ的環境によって発展してきた同宗教習俗の多様性、家族的紐帯をベースとした民衆的活力が一部、馴致化されるに至っていることを確認した。

論考では、ヨルバ系宗教の実践者がヨルバ系宗教の正統性を、アフリカ、特にナイジェリアおよびその周辺地域への文化的回帰によって担保し、キューバ国内の動向、特にヨルバ文化協会の流れに対峙するという状況を確認したが、このような特徴は、本稿の仮説と多くの部分で一致する結果となった。

そのようなアフリカ回帰主義的傾向は、アフリカ系キューバ人としてのルーツの模索とも連動していたが、なによりも、彼(彼女)らの宗教的権威や正統性とより深く結びついていたことが確認できた。それはアフリカ回帰主義者たちが、ヨルバ文化協会と連なるヨルバ系宗教実践者をクリオージョ派として定義しながら自らの宗教実践と差異化し、そこで認められていない女性の最高聖職者イヤニファの存在を、アフリカの解釈から承認するといった傾向からも看取できた。

しかし同時に、アフリカ回帰主義的傾向をもつ彼(彼女)らのアイデンティティは、自らの実践がいずれにしてもキューバの伝統に関連したものであり、自らもクリオージョ派であることを完全に否定できないといったジレンマの中で揺れ動いていたのである。こうした点は、実践コミュニティにおけるアイデンティフィケーションの流動性と符合する特徴となっていたのである。

ヨルバ文化協会の会員数が増加の一途を辿っていることから、アフリカ回帰主義的实践に隣接する信者の一部は、近年、ヨルバ文化協会を中心とする国民文化的動向に取込まれていることが伺える。しかし他方では、人類学者などの協力のもと、アフリカ回帰主義者たちのグループが統一集団を形成するといった流れも顕在化しつつあり、それらの関係を精査することが課題として確認できた。

(3)2014年8月、2016年3月、2017年3月、のフィールド調査に基づいた論文「キューバにおけるヨルバ系宗教のアフリカ回帰主義的動向とその多様性」の概要

伝統的なヨルバ系宗教の実践が、個人の家やパドリーノの家を拠点に、家族的な紐帯のもと、口頭伝承を中心とした知識の継承が重視されるといった実践コミュニティ的環境のもとに発展してきたにもかかわらず、近年は、書物やインターネットの情報など様々な情報の拡散によって、師弟関係、家族的紐帯など実践コミュニティ的環境が脆弱化しつつあるという点である。

他方、ナショナルな影響に関しては、グローバル化の影響により、国家の強いサポート

を受ける、キューバ国民文化に根差したヨルバ文化協会の影響が拡大しつつある一方で、同協会に対立的な諸集団がフラテルニダデスとの名称で、アフリカ回帰主義を標榜し、それぞれの活動を展開しつつある。そこでは、ローカル性をベースに、グローバルな言説、特にナイジェリアにおける女性聖職者の権威を承認し、返す刀でナショナルな動向としてのヨルバ文化協会における動向をクリオージョ派として定義づけ、イヤニファを認めない方針に対立的な見解を提示する傾向が顕在化しつつある。また、アフリカの伝統を重視し、ナイジェリアでのイニシエーションの授与やアフリカにおいてのみ実践されてきた儀礼の導入、アフリカ原産の薬草の栽培やその活用、ナイジェリアから輸入したサントや宗教用具などの使用など、グローバル化におけるアフリカ回帰主義的傾向が顕在化しているのである。

またそうしたグループがコンシリオ・デ・ババラオ・トラディシオナリスタなどの枠組によって、統合を目指す動きがあると同時に、ヨルバ文化協会との関係性については多様な見解がみられ、容易に統合が実現しないことが予想された。

アフリカ回帰主義者の多くは、公的あるいは表面的には、アフリカ・ナイジェリアの伝統を本質主義的観点から受容し、キューバに伝播していない伝統を再興しようとしているが、そこには自らの実践をより正統化しようとの目論見も垣間見えるのである。実際、彼らへの個人的インタビューでは、彼らもキューバで実践されているヨルバ系宗教の本伝統がアフリカにはすでに残存していないことを承知しており、同時にナイジェリアで入信儀礼や種々の称号を得てキューバで影響を拡大しようとする実践者に対しては否定的見解が共有されていたのである。

こうした傾向は、グローバル化社会における民衆宗教のナショナル、ローカルな諸相と競合し変化するヘゲモニー的折衝過程としても、またそこでのアイデンティティ化のプロセスとしても、非常に重要な特徴を示していよう。

現在のところそのような正統性の揺れ動きは、それぞれの集団の指導者の教義・儀礼の解釈、実践に大きく依拠しており、指導者の方向性が種々の利害関係などによって変化すると共に、正統性の根拠やそれをめぐる諸言説も変化する傾向にある。

以上の知見に基づき、本研究で掲げたグローバル化社会における実践コミュニティとしての民衆宗教的实践の諸相を以下の通り整理しておきたい。

グローバル化に伴う国家的動向の中で、アフリカ系の伝統に根ざした宗教実践が、国家的枠組みに取り込まれ、国民文化を標榜する組織化が進行している。そこでは、従来の家

族的紐帯を重視した信仰実践が軽視され、実践コミュニティの特長が希薄化するという傾向が顕著となっている。

そのような国家的動向に対し、アフリカ回帰主義をめざす各実践者が国民文化的宗教実践の流れをクリオージョ派として糧後来ズし、それらに対抗する組織化形成し、独自の正統性を模索する動向が顕著となっている。

しかしそのようなアフリカ回帰主義的実践者のアイデンティティは非常に流動的なものである。彼(彼女)らは、アフリカの要素を本質主義的観点から取り込み、自らの宗教実践の正統性として表現する一方で、自らのアイデンティティにキューバ的要素が不可欠であるといったジレンマを感じつつ、状況に応じ、それらのアイデンティティを使い分けるといった傾向を示していたのであり、実践コミュニティにおけるアイデンティフィケーションのプロセスとして重要な傾向を確認することができた。

引用文献

Cabrera, Lydia, *El Monte*, Letras Cubanas, 1981

Fernández, Dámian, *Revolution and Political Religion in Cuba*, Temple University Press, 1992.

Moore, Robin, *Nationalizing Blackness*, University of Pittburgh Press, 1920-1940.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

井上大介「キューバにおけるサンテリーア信仰をめぐる人類学的実践」『ソシオロジカ』39巻(1・2号), pp.27-61、2015年3月。

〔学会発表〕(計 2 件)

井上大介「キューバにおけるサンテリーア信仰をめぐる文化人類学的実践」(日本宗教学会第73回学術大会、2014年9月12日~14日、於:同志社大学)

井上大介「キューバにおけるレグラ・デオチャイファ信仰の権威と正統性をめぐる動向」(日本文化人類学会第51回学術大会、2017年5月27日~28日、於:神戸大学)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

井上 大介 (INOUE, Daisuke)
創価大学・文学部・教授
研究者番号: 20511299

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号:

(4)研究協力者

()